

「人を対象とする生命科学・医学系研究についての情報公開文書」

ドナーや患者のどのような影響により骨髄濃縮に影響が生じるのかを調査します。

研究結果に関しては公表を前提とします。

#### 【研究課題名】

骨髄濃縮における濃縮効率の調査および骨髄濃縮に関与する因子の探索

#### 【研究の目的】

患者に骨髄移植をする前に、骨髄濃縮という操作を事前に実施する場合がある。この骨髄濃縮における造血幹細胞の濃縮率を算出する方法を検討する。さらに、濃縮率に影響を及ぼす因子の解析を行い、今後の骨髄濃縮においてより効率的な骨髄濃縮に寄与する要素の検出を目指す。骨髄濃縮率に関与すると思われる因子は、骨髄処理中の操作環境や手技によるものと考えられる一方、ドナー側の因子も関与している可能性があるため、一部のドナー情報を本研究に用いる。本研究により、骨髄濃縮における濃縮効率に関与する因子が分かれば、今後の医療においてさらに効率的な骨髄濃縮を実施できる可能性がある。また、それにより骨髄移植医療のさらなる向上につながると考えられる。

#### 【研究の方法】

信州大学医学部附属病院で骨髄バンクドナーからの移植が必要となった症例を対象とし、電子カルテ、骨髄採取時および骨髄濃縮時のレポートより、患者およびドナー情報の収集を行う。ドナーに対して本研究に特異的な資料収集は行わない。

収集するドナー情報は、ドナー適格性確認時の血液検査データの各項目、性別、年齢、身体所見、術前時検査情報等である。収集する骨髄の情報は、骨髄採取時のレポートに記載されている情報である。

また、日常業務での骨髄濃縮において得られた造血幹細胞数を表す検査値（CD34 陽性細胞数等）から、骨髄濃縮によってどれだけ造血幹細胞が得られたか（骨髄濃縮率）を計算する方法を検討する。

最適と考えられた骨髄濃縮率において、収集した情報との関連性を統計学的解析により調査し、より高い骨髄濃縮率を目指すために重要な要素を明らかにする。

#### 【研究実施期間】

倫理審査承認日～2029年7月

#### 【研究対象者】

2018年4月～2029年7月の期間に信州大学医学部附属病院の患者へ骨髄を提供されたドナー

本研究において個人情報はいませんが、得られた情報に関しては厳重に管理し、医学雑誌等に結果を公表する場合にも個人を特定できないかたちで行います。

**【研究責任者】**

信州大学医学部附属病院 輸血部 副部長 柳沢 龍

Email : ryu@shinshu-u.ac.jp

Tel : 0263-37-3223

**【研究分担者】**

信州大学医学部附属病院 輸血部 井原裕樹

信州大学医学部附属病院 輸血部 金井 峻

信州大学医学部附属病院 輸血部 小嶋俊介